



### 3. ヘルスコミュニケーションウィーク 2022 名古屋 第1回日本医療コミュニケーション学会学術集会報告

藤崎和彦

同大会長、岐阜大学医学教育開発研究センター

患者と医療者との対人レベルのコミュニケーションを実証研究する人文社会系研究者と医療系研究者が集まって2001年12月に「医療コミュニケーション研究会」が発足し、20年間の活動を踏まえて2022年4月から「ヘルスコミュニケーション学関連学会機構」の一分科会として「日本医療コミュニケーション学会」として生まれ変わりました。

研究会での20年の活動を受け、新たな「日本医療コミュニケーション学会学術集会」の第1回のシンポジウムとして、これまでの医療における対人コミュニケーション研究の現状を踏まえて、今後の課題を明らかにするシンポジウムを開催しました。

座長は京都大学大学院医学研究科の岩隈美穂先生とこの報告を書いている藤崎で、10月2日（日）の14:10~15:40の時間帯で「医療における対人コミュニケーション研究の現状と課題」というタイトルで実施されました。

シンポジストは立教大学の灘光洋子先生、九州歯科大学の鬼塚千絵先生、岐阜大学医学教育開発研究センターの今福輪太郎先生でした。

灘光洋子先生からは、異文化コミュニケーションの視点から、鬼塚千絵先生からは、量的研究としてのRIASや医療コミュニケーション教育研究の視点から、今福輪太郎先生からは、医療者教育研究の動向を踏まえたうえでの談話分析の可能性の視点から、それぞれ話題提供をいただき、活発に議論することが出来ました。